







【写真】①旧竹内木材をリノベーションしオープンしたGR caffèの外観。②カフェのテラス席。③オープニングセレモニーでのテープカットの様子。左からUR都市機構 東日本都市再生本部長 松村氏、山吹グループ 酢久商店株式会社／株式会社フォンス代表取締役 小山氏、ガブリエレ リヴァ氏、小泉小諸市長。④提供されるスイーツの一例。

新たなコミュニティスペースとカフェがオープンしました

「旧小諸本陣・大手門・三之門地区 文化・観光交流拠点化プロジェクト」の一環として整備を進めてきたカフェ「GR caffè（ジーアール カフェ）」・ショップ・工房が、大手門公園内の「まちタネ広場」隣接地に10月30日㈭オープンしました。

本事業は、本プロジェクトの趣旨に基づき、公園に隣接する歴史的な建物を独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）が保存・利活用を目的に取得し、酢久商店株式会社がカフェ・工房・ショップとして運営することで、公民共創によるまちづくりを進めるものです。

明治時代の建物を活用した趣のあるカフェ

カフェは、かつて木材問屋兼住宅として使われていた建物を、歴史的な風情と趣を大切に残しながら、現代的な要素を加えてリノベーションしています。訪れた皆さんに、上質な時間と空間を楽しんでいただける施設です。

カフェで提供される商品は、イタリア・ミラノ出身のパティシエ・ショコラティエで、ジェラート職人としても名高く、パネットーネの日本におけるパイオニアでもあるガブリエレ・リヴァ氏が手掛け、こだわりのコーヒーをはじめ、地元素材を使ったジェラート、ドルチェなどが楽しめます。

2階にはコミュニティスペースを設置

2階は、どなたでも気軽に利用できるコミュニティスペースとして開放しています。大広間は公園で遊ぶ親子の休憩場所として利用できるほか、授乳やおむつ替えの際に利用可能な個室も設けています。大広間の窓際にはデスクスペースがあり、学習や読書などにも利用できます。

■利用時間

【大広間・デスクスペース】
平日12時～17時に利用可能

【個室（授乳室）】営業時間に利用可能

大広間は、カフェのテイクアウト商品や離乳食、水筒のお持ち込みは可能です。また予約制（1時間500円）で、市民の皆さんによる会議や各種教室、ワークショップなど、多彩な交流・活動の場として利用できます。





2階には10畳の部屋が2部屋、また個室があります。

参加無料

2階コミュニティスペースで「のびのび呼吸くらぶ」を開催します

12/3（木）から、無料のヨガ教室を定期開催します。ゆっくり呼吸をしながら無理なくお身体を動かしてみませんか？

■日　時　毎週木曜 10:45 ～ 11:30
　4月以降（夏季）は時間変更あり
■対　象　50歳以上の方　■定　員　各回6名
問　まんまるヨ～ガ 桂（けい）
☎ 070-1736-3147
右記の二次元コードまたは上記電話から予約可能（予約がなくても参加可能）。



GABRIELE RIVA
MILANO NAGANO
Pâtissier Chocolatier
GR caffè MILANO・NAGANO

■ブランド名：GABRIELE RIVA（ガブリエレ リヴァ）
■店名：GR caffè（ジーアールカフェ）
■住所：小諸市大手 1-6-8
■電話：0267-31-6907
■営業時間：平　日 10:00 ～ 17:00
　土日祝　9:00 ～ 18:00
■定休日：火・水・年末年始
　季節により営業日・時間が異なる場合があります。



【イラスト】小諸駅周辺未来チャレンジビジョンより



【写真】大手門公園・まちタネ広場

特集

公園を使いながら、まちを育む。

問　都市計画課

小諸駅からほど近い大手門公園。この公園には「大手門」「停車場ガーデン」「せせらぎの丘」「本陣主屋」「まちタネ広場」があり、訪れる人が思い思いに過ごし、新たな活動や交流が生まれる場所を目指して、さまざまな取組みが進められています。

今月号の特集では、この大手門公園で行われている取組みや、新しく完成したコミュニティスペース・カフェをご紹介します。ぜひこの機会に足を運んでいただき、公園の魅力を感じ取ってみてください。

大手門公園について、市ではURグループの支援を受けながらベンチや案内サイン、照明などを試験的に設置し、季節や時間帯による使われ方を確かめる社会実験を進めています。また、イベントや公園の手入れなどに市民が関わることで、みんなで公園を使い、育てていく取組みへと広がっています。こうした活動の中心となっているのが、まちに新しい人の動きや活動を生み出す「まちタネ広場」です。

「まちタネ広場」が国土交通省都市局長賞を受賞

10月30日㈭、一般社団法人日本公園緑地協会が主催する第42回都市公園等コンクールにおいて、「まちタネ広場」が、特定テーマ部門「都市公園の未来を牽引する先進的な取組」において、国土交通省都市局長賞を受賞しました。

今回の受賞では、公園を整備してから使い方を検討するのではなく、市民参加による段階的な整備や社会実験を通じて、公園の使われ方を確かめながら、利用者や周辺事業者との関係も含めて育てている点が評価されました。また、公園で生まれたにぎわいが、周辺の民間投資や市民による自律的なエリアマネジメントにも広がり、まちなか再生の起点となっていることも評価されています。

「まちタネ広場」は、市民・事業者・学生など、さまざまな人が公園を使いながら、新しい活動を生み出していくための場所です。小さな実践を積み重ねることで、公園と周辺のまちに新しい人の流れや過ごし方をつくっています。

中学生が手作りベンチを設置

季節によって、公園で好まれる場所は変わります。夏の暑い時期には木陰のベンチが利用されますが、秋が深まると、日向のベンチに腰掛け、三之門や大手門を眺めながら過ごす人の姿も見られます。

10月30日㈭には、芦原中学校の生徒が制作したベンチが、停車場ガーデンの指定管理者である「NPO法人こもろの杜」へ寄贈され、せせらぎの丘に設置されました。

このベンチは、「駅周辺に座る場所が少ない」と感じた生徒たちが、地域学習の一環として制作したものです。市内の木材屋から提供いただいた木材を活用し、生徒たちの手によって、公園で使うベンチとして生まれ変わりました。

今後は公園を訪れる人の休憩場所になります。生徒の気付きから生まれたベンチが、公園での新しい過ごし方をつくっています。

市民の手で灯す「秋灯り」

夜の公園にも人が訪れ、ゆっくり過ごせる環境をつくるため、小諸商工会議所青年部が「秋灯り小諸」を開催しています。

5年目を迎えた今年は、大手門公園に加え、相生坂公園や相生町通りにも会場を広げました。ライトミーティング（参加型準備ワークショップには中学生や小諸義塾高等学校の生徒も参加し、灯りの制作や展示を通じて、世代を超えた活動が生まれています。また今年は、例年以上に公園の日常管理にも取り組み、大手門公園の樹木の剪定、下草刈り、落ち葉集めなどを市民参加で行う企画も実施しました。

市民が公園を手入れし、灯りをともし、訪れた人を迎える。こうした関わりの積み重ねが、公園を身近な場所として育て、継続的なにぎわいにつながっています。







①・②市民の手で手入れされた大手門公園を、やさしい灯りが彩る「秋灯り小諸」。今年は相生坂公園や相生町通りにも会場が広がりました。
③芦原中学校の生徒が制作したベンチ。せせらぎの丘に設置され、公園を訪れる人を迎えます。